

## 東大EMP第11期プログラム 最終報告発表 概要

(2014年9月13日)

チーム・メンバー	課題テーマ	タイトル	概要
<p>[チーム1] 足利 健淳 井上 雅演 大塚 芳紘 松岡 純一 矢澤 聡</p>	<p>健康的で活力のある 超高齢化社会経営</p>	<p>ボランケア社会システム</p>	<p>「超高齢化社会」について、「個人」「医療・介護現場」「産業」の3つの側面から総合的に考察を試みた。①個人レベルでは健康、お金、孤独といった老後への不安、②医療・介護現場レベルでは日本の制度が現場の多忙さや社会保障費の増大をもたらす実態、解決策とされる「地域包括ケア」の問題点、③産業(関連産業)レベルでは最先端研究が産業の競争力につながっていない原因などについて、そこに潜む悪循環を検討した。</p> <p>これらを克服する”3方よし”の良循環ソリューションスペースとして「ボランケア社会システム」を提唱する。医療機器・医薬品はもちろん食品、電機・ロボットなど幅広い”高齢社会関連産業(企業)”の協力により、「ボランケアポイント」という”通貨”を発行し、高齢者だけでなく地域住民による医療・介護現場でのボランティアを促進することで、個人の生き甲斐、現場のサポート、関連産業の市場拡大を図る。これを支える基盤として、①医療・介護現場における、患者等の健康度アップに応じた成果報酬型のアライアンス、②ボランケアを通して①のアライアンスを強化する手法、③それらの前提となる地域ブロックや基幹病院との連携体制構築などのサブシステムを提案する。</p>
<p>[チーム2] 阿部 尚人 上野 聡 藤野 純一 古川 淳 宮津 正治</p>	<p>資源・エネルギー活用 の規律による環境保 全</p>	<p>日本のソフトパワーを規律 形成の切り札へ (人類存続に向けた第一 歩)</p>	<p>環境悪化が止まらない。地球規模の温暖化や新興国を中心とした公害など。問題の根源は資源・エネルギーの消費の拡大が止まらないこと。とくに、経済発展が進む中国の資源利用拡大が著しい。</p> <p>これらの問題は、皆わかっているはず。では、なぜ、環境保全が進まないのか。それは、今の世界が環境保全という同じ方向を向いていないからではないか。ポスト議定書の目標すら決められない状況にいるのだから。根本的な問題を抱える中では、いくら、画期的な技術や制度を提案しても、絵に描いた餅になってしまう。</p> <p>そこで、我々は、資源利用拡大が著しい中国に着目して、なぜ、資源の利用拡大が続くのか、どこに問題があるのか分析した上で、課題を設定し、その解決策を提示する。まさに、テーマにあるように、規律を生み出すまでにいかにアプローチするか提案したい。最後には、環境問題に限らない世界的な問題に関しても示唆を行いたい。</p>

<p>[チーム3] 今里 和之 坂下 鈴鹿 向殿 和弘 安田 剛志</p>	<p>経済・金融分野の貢献と影響力の制御</p>	<p>動け！資産 ～金融資産から 投資への好循環～</p>	<p>失われた20年と言われつつある現在の日本における経済環境の中で長期のデフレが続く、その傾向は全世界的に広がりつつある。多くの先進諸国で低金利が進みデフレに苦しみ始めている。これにより、多くの資産保有者層は消費を抑え金融資産を固定化することに大きなインセンティブを持つことになり、彼らの実質的な保有資産価値の大幅な向上に寄与してきた。</p> <p>我々のチームにおいては、グローバル化が大きく進む金融は非常に複雑に絡みあい簡単にはソリューションを見出せない可能性が高い中において、我々なりの課題設定を行なうことにより、デフレの進行によって一段と進んだ資産の再配分・流動化機能の低下に着目しソリューションスペースを提示する。これにより、多くの資産を保有する層に魅力的かつインセンティブを持つ資産活用の道が与えられるとともに、それらを通じた公共の福祉やインフラの向上に繋がることを目的とした方策を提案してゆく。</p>
<p>[チーム4] 大西 信二 河村 洋 下村 哲 高橋 徹</p>	<p>多様な宗教、文化、政治を前提とした共通行動規範確立</p>	<p>プロトコールでコントロール</p>	<p>人類活動の多様化、科学・技術の発展等を背景に、様々な場面で世界的に対立が拡散、複雑化、先鋭化しているが、我々はまず課題を「対立のコントロール」と設定した。</p> <p>これは対立そのものは多様性の裏の顔であるという認識の下、対立そのものをなくそうとするのではなく、対立を人類が受容可能な範囲に置くことを意味する。その際、講義で示された過去の思想等及び現在行われている取組みについて触れつつ、具体的にどのような発想に立つことが対立のコントロールに資するかを議論した。</p> <p>結果、主義主張は脇に置いて、コミュニケーションを図ることが重要であると観念し、そのための規範として複数の「プロトコール」を置くことを提案する。</p>
<p>[チーム5] 江口 真理子 柏木 英雄 下城 理重子 高柳 健太郎 鍋田 敏之</p>	<p>先端科学技術の効用と新世界観の形成</p>	<p>先端科学技術の効用と新世界観の形成</p>	<p>健康で活力のある超高齢化社会の実現、持続可能な再生エネルギーの活用など、先端科学技術の発展は人類の未来にとって重要であり、新たな視点で先端科学技術を捉え直す転換点に我々人類は立たされている。</p> <p>科学技術と社会の発展には、研究人材と資金の良循環が重要である。一流の研究者および関係者へのヒアリングと議論を通じて良循環を阻害する様々な要因が浮かび上がってきた。これらの阻害要因を取り除き、継続的な社会発展を促すための具体的な解決策を提言する。</p> <p>また、科学技術の発展により物質的な豊かさを追求してきた人類が、次ぎに目指すべき新たな世界観に関し我々のビジョンを提示する。</p>